

オンライン公開研究会開催報告

日時	2020年9月15日(火) 14時-16時
会場	オンライン会議システム Zoom 使用
主催	中央大学学術シンポジウム「グローバル文化史の試み」

【プログラム】

縄田雄二 研究員 (文学部教授)

導入

長谷川貴彦氏 (北海道大学大学院文学研究院教授)

講演「転回する歴史学とグローバル文化史」

諫早庸一 客員研究員 (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター助教)

研究紹介「グローバルに文化を問うこと：図について東西の天文学を例に」

縄田雄二 研究員 (文学部教授)

研究紹介「科学史から見た文化史：音についての東西の詩を例に」

ディスカッション

人類の文化の歴史を地球規模で考えたものをグローバル文化史と称するならば、グローバル文化史という研究領域には、歴史学と文化研究との両方からアプローチできることになる。ここに異なる専門間の対話の必要も生まれる。このような事情を背景に、この研究会は催された。

長谷川教授はイギリス史と歴史理論を、諫早研究員はモンゴル帝国期のユーラシア大陸における知の交流を、縄田はドイツ文学と現代ドイツで発達している文化学を、それぞれ専門とする。会は、長谷川貴彦教授の講演「転回する歴史学とグローバル文化史」を中心におき、それに続き諫早研究員が「グローバルに文化を問うこと：図について東西の天文学を例に」、縄田が「科学史から見た文化史：音についての東西の詩を例に」と題してそれぞれの研究を紹介した。しめくくりの議論は、聴き手も交え活発に行われた。

ご講演くださり議論に応じてくださった長谷川教授にあらためて御礼申し上げます。(縄田雄二)